



22世紀の資本主義

やがてお金は消滅する

文春文庫 成田悠輔著

成田悠輔のプロファイル

- 1985年10月18日生まれ（39才）
経済学者、起業家
イエール大学アシスタント・プロフェッサー
半熟仮想株式会社・代表取締役
専門はデータ・アルゴリズム・数学・ポエムを使った
ビジネスと公共政策の創造とデザイン
東京大学卒業後、同大大学院を修了
米マサチューセッツ工科大学（MIT）で博士号取得
多くの企業や自治体と共同研究・事業を行う
メディアの露出も多い

資本主義とは

- **すべてが市場経済の契約になり、商品になり取引の対象となる**
- **資本材の私的所有、私的に決定される投資、自由市場の競争によって決定される価格・生産・流通を特徴する経済システム**
- **事業資金は通常、株を通じて市場から調達**

株とはなにか

- 物理的には実体のない権利
- 未来に生まれるかもしれない
利益を現在の価値に置き直して証券化して
今、価値があると皆で決めたもの
- 目に見えない未来の価値（幻想を追いかけた
もので極めて危ない）
- 現在の利益と未来の利益を交換するのが金融。
株は未来に実現するかもしれない物や事をスケッチする

金（キン）と株の比較

- 金は目の前の価値を実体として評価できる
- 金に比べて株の価値が高騰している
- 総価値、株と金を比較すると、50年前に比べて、株は金の10倍。
- 世界に出回っている金の総額と
世界で発行されている株の時価総額（株価×発行株数）
の合計の比較

実体と株の比較

- **新しい価値観の誕生、ブランド
未来駆動のブランドの時価総額が大きい**
- **テスラの時価総額は9180億ドル（138兆円）、
車の1年間の販売台数は177万台、
トヨタの時価総額は42.5兆円、車の1年間の
販売台数980万台**
- **アメリカでの寓話（実際にあった）
「売上ゼロの赤字企業だが、今後、頑張っていくと
株式市場に上場したら時価総額が1兆円になった」
（インターネット、製薬、電気自動車、蓄電池
など）**

株の現状

- 安くてよいものを、与えてくれる企業よりも
雰囲気や優越感、高揚感を与えてくれる企業
の市場価値が高まっている？
- ルイビトンなどの服飾、時計やワインを売る
ハイブランド複合体、LVMHの時価総額は
トヨタやソニーをはるかに上回っている

暗号資産

- **ブロックチェーン技術（ネットワーク上にある端末同士をダイレクトに接続し、暗号技術を用いて取引の記録を分散的に処理・記録するデータベース）を使った「新しい電子マネーの総称」紙幣や硬貨のような物理的実体はなく、デジタルデータとしてインターネット上に存在する資産**

暗号資産の特徴

- 価格が乱高下する（誕生と崩壊）
- 2009年に誕生したビットコイン、
現在の時価総額は、2兆ドル（300兆円）
- 人類市場、最も利益率の高い資産
- 未来に向かう新しい経済生態系
（革命と詐欺）

資本主義の実態

- 株、暗号資産に見られる実体のなさ、スカスカでつかみどころがない
- 価値があると思われてないものを取り上げてまだ、見ぬ価値が眠っていると物語をぶちあげる。
- それで人々を説得すると潮目が変わり、新しいなにかの価値があると人々が思い込みはじめる
- すると実体がないに価値が上昇する（バブル？）

改めて資本主義とは何か

- 定義できない変態性が資本主義
- 資本は未開拓領域を食べて、価格と利益を生み出し、中身を変化させながら太っていく
- 変化と増殖が資本主義の本質
- 資本主義はもうひとつのフロンティアを食べてつある。それがデータ
- データは未来にどんな意味を感じたり、考え、なにをしようとしているかを暗示させる情報

データとは

- デジタル化できるものはすべてデジタル化する
それがデータ
- デジタル化はIDや権利を守るには不可欠な手段
- 情報・物事・心身、すべてデジタルデータ化
（個人が街かどでした事、カフェで言ったまづいこと
すべて、デジタルデータ化される。個人情報の管理、
- 世の中で起っている活動（経済活動など）をすべて
把握してデジタル情報データ化する
（中国はその方向）

デジタルデータ化

- スマートウォッチなどで血圧、体重などの健康生体情報がデータ化される。それはホルモン状態、脳活動まで広がっていく
- 神経精神情報もコンピュータ網に接続される
- データはそれを必要としている業者に売買

デジタル化

- 世界のあらゆる断片を契約や商品化出来る
- データそのものを商品化して取引するデータ取引所が既に開所している
- 利用者は金融・医療などの領域の事業者
- 「個人情報同意なしに売買していること」が問題化
- データを使ってAIが販売戦略をたてる

経済活動の実態と記録（1）

- 大古の時代、経済活動は小さく、当事者間の距離も近かった
- 活動や物の交換、贈与のほとんどが直接、顔を見て小さな村落や街角でやっていた
- ほとんどの経済活動が記憶や簡単な記録できた
（古代メソポタミアの粘土板には共同体内で誰が誰になにをしたか（貸し借り）を記録
- 経済の実態と記録のずれが少なかった

経済活動の実態と記録（2）

- メソポタミアの粘土の台帳も「この粘土板を持ち込んだ者には、これこれの量の小麦を渡す」と書かれたものがある
- 為替手形のような痕跡がある
- 台帳が手形やお金に進化していったことを示唆する
- 世界最古の貨幣 は銀貨として、紀元前4300年頃から紀元前1530年頃まで古代メソポタミアにおいて使われた「ハル」と呼ばれる物がある

経済活動の実態と記録（3）

- 時代とともに経済活動が活発化、爆発する
- 活動範囲が大きくなり、遠くの人とも取引をする。取引相手も数が増えていく
- 活動のすべてを台帳に記録するのは無理になる
- 計算機・電話もない時代、記録の代理としてお金が使われるようになった

経済活動の実態と記録（4）

- 大航海時代、産業革命、コンテナとここ数百年は手に負えない。
- 経済の実態は爆発する一方。記録は落ちこぼれ経済の実態と記録のずれが拡がり、それを埋めるお金の黄金時代になった

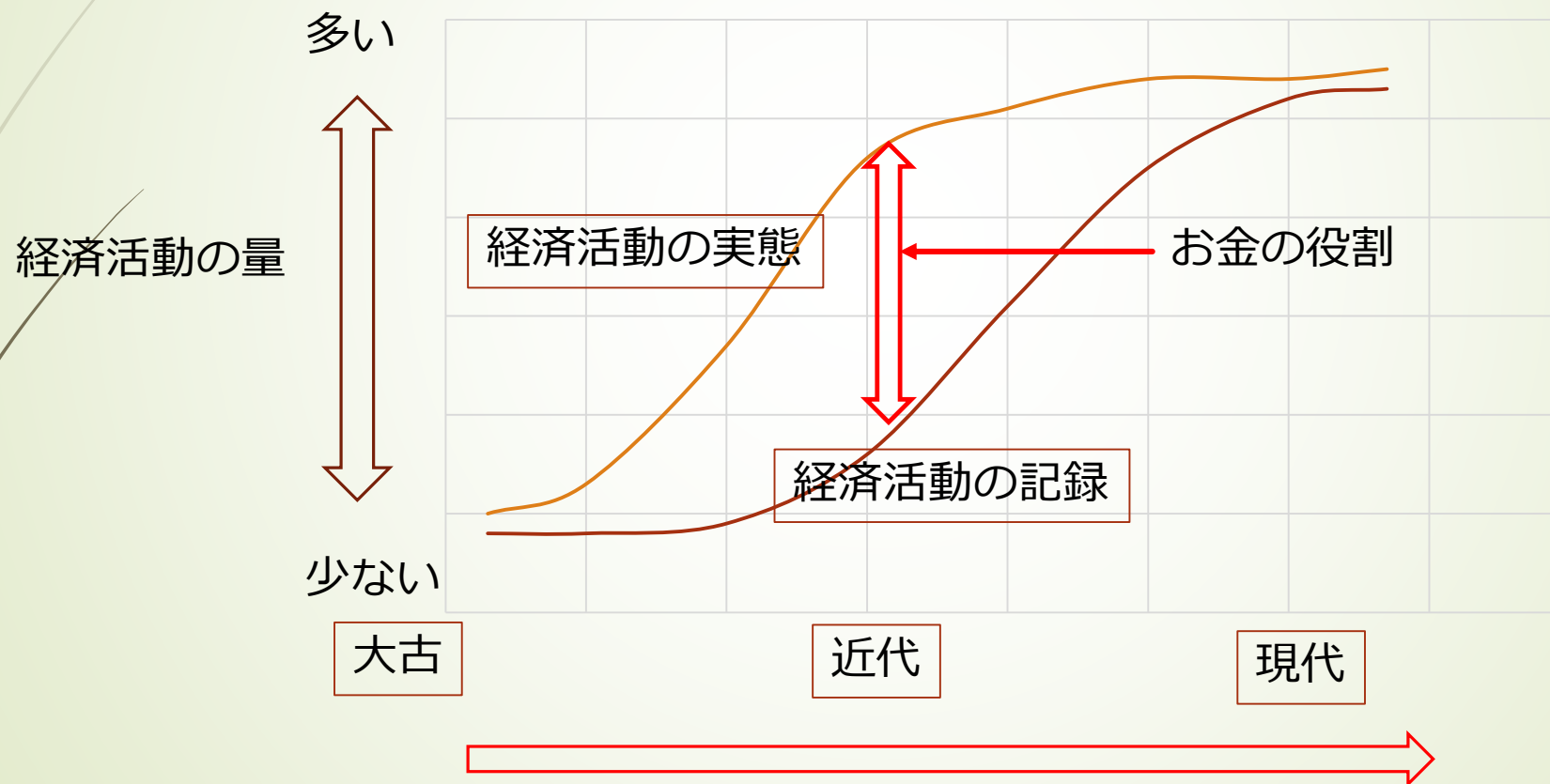
経済活動の実態と記録（5）

- 時代が蘇る。ここ数十年で経済の実態と記録が近づいた。
- ほとんどの決済は振り込みやキャッシュレス、現金は街角での小さな買い物だけ
- デジタル決済はすべてデータとして記録されるひとつのデータベースがあるわけではないが、どこかの銀行や事業所に記録がある
- 各地に分散した記録履歴をのぞき見することができる

経済活動の実態と記録（6）

- ほとんどの決済は振り込みやキャッシュレス、現金は街角での小さな買い物だけ
- デジタル決済はすべてデータとして記録されるひとつのデータベースがあるわけではないが、どこかの銀行や事業所に記録がある
- 各地に分散した記録履歴をのぞき見することができる
- 大古の台帳経済に近い、デジタルグローバル村落経済

経済活動の実態と記録（7）



お金が支える一物一価

- 物やサービスに値段がついていてその分のお金を払えば誰でも買える
- 一物一価が支配的なのは、経済の記録データが貧弱であることも一因
- それぞれの人ごとに属性や履歴をたどってその物やサービスを手にいれるに値するかどうかを決めるデータがなかったから

一物多価（1）

- 一人一人の履歴データを追ってその人が何者か、取引きしていいのか、いくらぐらいの値段をつけるのがよさそうか、決めやすい。
- そもそも、ポイントやクーポンなどによって価格がそれぞれ相手によって違うことはあった
- それが自動化し、全面的に起る
- 種々の履歴情報が使われる
- 一物多価制経済は価格だけでなく、税金にもより細かな区分によって個人や企業によって適用できる

一物多価（2）

- 個人の行動履歴や資産状況などに基づき融資やカードの与信を個人ごとに最適化して自動で即決する
（いくら借りれるか、利子などが個人によって違う）
- あらゆる価格が人それぞれによって違う
- 金のありそうな人や信用のなさそうな人には高く売る
- アメリカのあるE-コマース会社は同じ商品が閲覧者によって異なるシステムを導入している（履歴情報により、どれくらい価格に敏感かを推定）

一物多価 (3)

- 同じ一万円でも購買力が人によって違ってくる
- ある人の収入や資産を比較することが無意味になってくる
- 同じ商品でもお金持ちほど高くなるようにすれば格差を是正する機能が働くことになる
(お金持ちでない人がお金持ちに廉価で転売すれば、取引記録が残るのでその取引を禁止させることが出来る)
- 市場経済と徴税・富の再配分の融合が起きる
- 富の再配分は国家の専売特許ではなくなる
- 取引、決済、収入、資産がすべて記録に紐つけられることが前提

国家は高くつく

- 大量の役人を雇って膨大な費用をかけて徴税したあげく、政党の支持率をあげるためにバラマキをやる
- 徴税・再配分機能を主体として経済的に国家は驚くほどに肥大化している
- 無数の補助金のスキームが作り出されて、競争原理も働きにくく成果も測りにくい国家は非効率と非合理の巣窟となっている

ベーシック・インカム&アセット

- お金をゼロからデザインする仮想・暗号通過であれば、ベーシックインカム&アセットを保障する仕組みは作れる
- 「どんなことが起きても、収入や資産は一定以下にはならない」という制約を組み込む
- 資産や収入に上限を設けることもできる
(大金持ちが絶対に出来ない配分公式を盛り込む)
- 市場の徹底による分配の実現

22世紀の資本主義

- 国民全員が個人の存在と身柄を証明する
IDを持つことを義務付けする
- 経済に関する全個人データの一元化
- なりすましアカウントが出来ないシステムの
確立（AIの力を使う）
- 人間であることの唯一無二性を証明する
IDの構築（人間とAIを区別することが
難しくなっている）
- 資本主義と情報国家の融合が22世紀
の資本主義）

22世紀の資本主義

- **すべてをデータ化して商品化した市場経済に押されて国家が担う徴税権、財政政策、社会保障の役割が弱まる**
- **国家は警察、軍事、外交、司法などの役割を主に担うことになる**
- **治安維持のための公共警備会社のような存在**

22世紀の資本主義

- 稼げない人、働けない人、貧しい人も
なんの引け目も感じずに生きられるような
経済感、人生観への転換
- そのために測ることをやめる
- 金持ちとか貧乏とかを比較してしまう尺度
を忘れ去ること
- お金で測られる値段、時価総額、年収や
資産が「価値」とあるという倒錯を払拭
すること

感想（私見）

- すべての国民の経済活動がお金の廃止でガラス張りになることは抵抗が大きいだろう（中国のような国なら出来るか）
- 格差の解消は、上昇思考の人たちのインセンティブを阻害し、イノベーションが起きにくくなる
- イノベーションが格差を拡げてきたことの裏返し
- AIを駆使して、ガラス張りの仕組みを突破しようとするものが出てくるだろう
- イーロン・マスクの意見を訊いてみたい